

公開セミナーの開催（第2期における7回について）

【第1回公開セミナー】 社会の急速な高齢化と安全安心

趣旨：

急速な社会の高齢化のなかでの安全安心を主題として公開セミナーを開催することに致しました。室崎益輝消防研究センター所長は、神戸大学都市安全研究センター教授として、阪神・淡路大震災の調査研究に大変尽力されるとともに、新聞、テレビや各所の講演会などで防災のありかたに関して積極的な発言、提言をなされており、また、小出治教授は都市防災に加えて最近では地域社会の安心と防犯の課題に第一人者として積極的に取り組まれておられます。

日時：平成18年7月25日（火） 13:30 - 17:00（開場 13:00）

場所：東京大学 山上会館大会議室

プログラム：

13:30 - 14:30 (1) 「住宅火災から高齢者をいかに守るか」

消防防災科学技術寄付講座客員教授 関澤 愛

14:30 - 15:30 (2) 「高齢化社会における安全安心をめぐる今日的課題」

総務省消防庁消防研究センター所長 室崎益輝

16:00 - 17:00 (3) 「高齢化のすすむ地域社会における防犯のありかた」

東京大学大学院都市工学専攻教授 小出 治

【第2回公開セミナー】 関東大地震についての新しい知見とそこから得られる教訓

趣旨：

いつ起きても不思議ではないと言われる東海地震をはじめ、東南海地震、南海地震などの巨大地震や首都直下地震の被害予測や防災対策が関心を呼んでいます。80年以上も前に発生した1923年関東大地震は、海溝型地震であると同時に震源断層が大都市近辺にまで潜り込んでいたことにより直下地震としての特性も有していました。そのために、津波、地盤災害、建物被害、そして火災被害と実に様々な被害様相を呈しながら、かつ東京や横浜などに甚大な被害を及ぼしました。

このたび、この関東大地震についての最新の知見とそこから得られる教訓について各専門の方からご講演いただくとともに、これから我々が備えるべき課題について討論を行うことを目的として、下記の要領で本寄付講座主催の第二弾公開セミナーを開催することに致しました。

日時：平成18年10月10日（火） 13:30 - 17:00 （開場 13:00）

場所：東京大学 山上会館大会議室

プログラム：

- | | | | |
|---------------|--------------------------|-------|------|
| 13:30 - 13:35 | 開会の挨拶 | | |
| | 内閣府政策統括官（防災担当）付災害予防担当企画官 | 荒木潤一郎 | |
| | 東京大学消防防災科学技術寄付講座客員教授 | 関澤 愛 | |
| 13:35 - 14:20 | (1) 「被害の全体像：地震の様相、揺れ、津波 | | |
| | | 鹿島建設 | 武村雅之 |
| 14:20 - 15:05 | (2) 「各地の土砂災害、地盤災害 | | |
| | | 日本工営 | 井上公夫 |
| 15:05 - 15:50 | (3) 「火災の被害」 | | |
| | 東京大学消防防災科学技術寄付講座 | 西田幸夫 | |
| | 休憩（20分） | | |
| 16:10 - 17:00 | (4) パネルディスカッション | 司会 | 関澤 愛 |

【第3回公開セミナー】
大規模災害時における危機管理
- 行政と企業における危機管理と社会貢献 -

趣旨：

わが国の震災リスク環境の中で、防災対策を担う行政はもちろんのこと、企業組織においても大規模災害時の危機管理のあり方が問われています。それらは、自らへの被害をできるだけ少なくするという自衛対策に加えて、本来機能を維持（BCP）することによって、また地域防災活動への参加等を通じて地域社会に貢献するという意味をも含む広い概念で語られるべきものであらうと思います。

そこで、今回は行政組織と、企業組織の危機管理にそれぞれ深い知見をお持ちの二人の専門家に、大規模災害における危機管理についてご講演いただくとともに、今後の課題についてフロアを交えて討論を行うことを目的として、下記の要領で本寄付講座主催の第三弾公開セミナーを開催しました。

日時：平成 20 年 1 月 21 日（月） 13:30 - 17:00 （開場 13:00）

場所：東京大学 山上会館大会議室

プログラム：

13:30 - 13:40 (1)開会の挨拶と主題解説

東京大学消防防災科学技術寄付講座客員教授 関澤 愛

13:40 - 14:40 (2)「大規模災害時における自治体の危機管理」

Blog 防災・危機管理トレーニング主宰（消防大学校客員教授） 日野 宗門

14:40 - 15:40 (3)「企業における危機管理

- 企業と地域の連携の観点から見た危機管理対策 - 」

（財）都市防災研究所 主任研究員 土肥 英生

休憩（20分）

16:00 - 17:00 (4)パネルディスカッション（3名の講師と会場）

【第4回公開セミナー】 法制度や行政施策が防災対策推進に果たす役割

趣旨：

近年、新宿歌舞伎町のビル火災や宝塚カラオケ店火災、あるいは耐震偽装問題など、消防法や建築基準法の基準を遵守していない建物の存在やこうした建物での事故が問題となっています。たとえば、阪神・淡路大震災では、従来は予想もしなかったビルの倒壊が発生し、多数の犠牲者が出ました。また、高齢化の急速な進展に伴い火災による死者数は近年増加する傾向にあります。しかしながら、その一方で、物品販売店舗やホテルなど一般の防火対象物（特殊建築物）での事故や火災による被害は、人的損害、物的損害ともに近年一貫して減り続けています。この理由は、直接的にはこの間における建築材料や工法の防・耐火性能の向上、あるいは防災設備や技術の進歩、防火管理体制の充実などがあげられますが、これらの防災対策の推進を促してきたのは、様々な事故事例に対応して打ち出されてきた消防行政や建築行政による施策や法規制であると言えますでしょう。

そこで、今回は消防行政、建築行政において、防火や防災に長年携わってこられ、それぞれに豊かな経験と深い知見をお持ちの二人の専門家に、法規制や行政施策が防災対策推進に果たす意義と役割、そして実際に果たしてきた役割についてご講演いただくとともに、今後の課題についてフロアを交えて討論を行うことを目的として、本寄付講座主催の第4回公開セミナーを企画致しました。

日時：平成20年8月8日（金） 13:30 - 17:00 （開場 13:00）

場所：東京大学 山上会館大会議室 （本郷キャンパス内三四郎池のすぐ近く）

プログラム：

13:30 - 13:45 (1) 開会の挨拶と主題解説

東京大学消防防災科学技術寄付講座特任教授 関澤 愛

13:45 - 14:45 (2) 「建物火災の被害軽減に建築・消防行政が果たした役割」

危険物保安技術協会 理事 小林恭一

14:45 - 15:45 (3) 「建築法制と行政施策が防災対策推進に果たした役割と課題」

(財)日本建築防災協会 専務理事 杉山義孝

休憩（15分）

16:00 - 17:00 (4) パネルディスカッション（2名の講師、司会と会場）

【第5回公開セミナー】
復興計画の実際と今後の課題
- 酒田市大火と阪神・淡路大震災の事例から -

趣旨：

阪神・淡路大震災の復興事業がほぼ終わった神戸市は、都市の外観を見る限り、当時の被害の記憶をたどるのが難しいほどに見事に再生した姿を見せています。一般に、災害後の都市復興は、迅速な生活復旧要求と本来は時間のかかる復興計画との狭間で、復興関係者間の利害や経費負担の調整を行いながら、また地区ごとの被災程度や実情をも踏まえながら、様々な整備手法を駆使してきわめて短時間で取り組む必要があり、その目標達成に至る道には大変な困難がつきまとうものです。

今回の公開セミナーでは、阪神・淡路大震災における復興計画とその原点ともいえる酒田市大火の復興計画に関わったご経験をお持ちの二人の講師に、これらの復興計画の事例とその実現過程での苦労、教訓などについてご講演をいただき、さらに、今後の都市復興を行う上での課題などについてフロアを交えて議論したいと考えています。

日時： 平成21年7月28日（火） 13:30 - 17:00 （開場 13:00）

場所： 東京大学 山上会館大会議室 （本郷キャンパス内）

プログラム：

13:30 - 13:45 (1) 主題解説

東京大学消防防災科学技術寄付講座 研究員 西田幸夫

13:45 - 14:45 (2) 「阪神・淡路大震災後の復興計画に携わって」

前兵庫県県土整備部参事 現在（社）兵庫県建築士事務所協会 事務局長 上原正裕

14:45 - 15:45 (3) 「酒田市大火の復興と阪神・淡路大震災」

長岡造形大学・造形研究科 教授 平井邦彦

休憩（15分）

16:00 - 17:00 (4) パネルディスカッション（3名の講師と会場）

【第6回公開セミナー】 関東大地震時の応急対応とその教訓

趣旨：

今から86年前に発生した1923年関東大地震は、海溝型地震であると同時に直下地震としての特性も有していました。そのために、津波、地盤災害、建物被害、そして火災被害と実に様々な被害様相を呈し、焼失住家45万戸、10万を越す死者など甚大な被害が生じました。当寄付講座では、第2回公開セミナーにおいて「関東大地震についての新しい知見とそこから得られる教訓」を主題として、主に被害の実態や地震の特性に焦点を当てて講演と討論を行いました。

そこで今回は、内閣府の「災害教訓の継承に関する専門調査会」による『1923 関東大震災報告書第2編』（下記注）の発行を期に、震災発生直後の応急対応について、国や地方機関などの対応の担い手別に震災に際しての動きを中心に、執筆に携わった各専門の方からご講演いただくとともに、今後に向けて学び取るべき教訓や課題について討論を行うことを目的として、下記の要領で公開セミナーを開催することに致しました。

日時：平成21年9月11日（金） 13:30 - 17:00 （開場 13:00）

場所：東京大学 山上会館大会議室 （本郷キャンパス内三四郎池のすぐ近く）

プログラム：

13:30 - 13:40 開会の挨拶

東京大学大学院工学系研究科特任教授 関沢 愛

13:40 - 14:25 (1) 「軍隊の応急対応とその背景」

横浜市史資料室 吉田律人

14:25 - 15:10 (2) 「被服廠跡での救護活動」

東京大学大学院人文社会系研究科准教授 鈴木 淳

15:10 - 15:55 (3) 「震災の教訓と市民の組織化」

神田外語大学准教授 土田宏成

休憩（10分）

16:05 - 17:00 (4) パネルディスカッション

司会 立命館大学歴史都市防災センター教授 北原糸子

【第7回公開セミナー】
活かせ阪神・淡路大震災の教訓
- 地震火災の被害を少しでも軽減するために -

趣旨：

今年には阪神・淡路大震災の15周年にあたります。しかし、首都圏に限らず未だに多くの木造密集市街地を抱えるわが国では、阪神・淡路大震災時の神戸市において見られたように、現有の消防力を上回る同時多発火災が発生した場合には、初期段階で消せなかった火災が市街地延焼火災となって拡がっていくことは残念ながら今後も起こり得る事態であり、起こっても決して不思議ではありません。いや、むしろ起こるはずだと覚悟して、少しでもその被害を軽減するための事前対策にこそ取り組むべきなのです。

今回の第7回公開セミナーでは、阪神・淡路大震災において神戸市長田区で懸命の消防活動に従事した経験をお持ちの講師、そしてまた、首都東京における直下地震に備えて地域の自主防災活動の活性化に日々努力している講師のお二人に、自身の経験や教訓、今後の対策への提言などについてお話していただきます。さらに、そのあとフロアを交えて議論したいと考えています。

日時：平成22年3月5日（金） 13:30 - 17:00（開場 13:00）

場所：東京大学 山上会館大会議室（本郷キャンパス内）

司会 消防防災科学技術寄付講座 特任助教 廣井 悠

13:30 - 14:00 (1) 主題解説 「地震火災の被害を少しでも軽減するために」

消防防災科学技術寄付講座 特任教授 関沢 愛

14:00 - 14:50 (2) 「阪神・淡路大震災時の消防活動の教訓を踏まえて」

神戸市消防局 北須磨出張所長 鍵本 敦

14:50 - 15:40 (3) 「東京における地域の防災力向上に係る実践報告

～地域とともに育む総合防災教育を通して～」

東京消防庁千住消防署 生活安全担当係長 中野孝雄

休憩（20分）

16:00 - 17:00 (4) パネルディスカッション（講師3名＋野呂雅之（朝日新聞社論説委員））